令和４年度　高志中学校２年　普通救命講習会

１　期　　日　令和４年１２月１５日（木）

２　目　　的　(1) ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法を、迅速かつ的確に行えるようにする。
　　(2) 生命の尊さに対する意識の向上を図る。

３　場　　所　福井県立高志中学校　第１体育館

４　報　　告

福井東消防署の職員６名をお招きして、普通救命講習会を行いました。事前に保健体育の授業で、傷病者を発見した場合、安全を確保した上で協力者を求め、傷害の状態に応じた適切な手当の仕方を学習しました。

講習会の最初に、「脳と心臓のどちらが大事か」という、究極の質問がありました。「心臓は移植できても、脳は移植できない。だから脳は大事。心停止した人に対して心肺蘇生を行うのは、脳の働きを損なわないようにするため」と説明がありました。その後、６グループに分かれて実技を行いました。男子グループの中には、アンパンマンの曲を歌い、そのリズムに合わせて胸骨圧迫を行ったところもありました。

最後に、「今回、全員が心肺蘇生の実技を行いましたが、１週間経つと半数は忘れてしまうので、今後も積極的に講習会に参加してほしい」と署員の方がおっしゃっていました。

［生徒の感想］

最初は、上手にできるか不安でした。しかし、意識の確認、呼吸の確認、胸骨圧迫の仕方、ＡＥＤの使用について、署員の方が一つひとつわかりやすく説明して下さり、自信を持って実技を行うことができました。自分の目の前で人が倒れていたら、逃げずに積極的に命を救う行動をしたいと思いました。